

『術後疼痛管理/フィジカルアセスメント』 研修会実施報告

日時 : 令和6年5月18日(土) ①10:00~12:00 術後疼痛管理
②13:00~15:00 フィジカルアセスメント

対象者 : ラダーレベルⅡ

参加者数 : 9名

目標 : ①麻酔および手術侵襲に対する生体反応を学び、術後疼痛の観察と看護技術を理解し、術後せん妄ケアの看護実践に活用することができる
②フィジカルアセスメントを学び、病状の変化の観察や看護ケアに活かす

<講師の紹介>

特定看護師

中央手術室 主査 A

集中ケア認定看護師

2A病棟 主査 Y



<内容>



午前は「術後疼痛管理」の講義で、術後疼痛が持続すると患者の精神的、身体的負担となり QOL の低下に繋がるため、講師の先生からは、疼痛の原因と部位を正確にアセスメントする事が大切で、疼痛のポイントが分かれば適切な鎮痛剤が使用でき、副作用の軽減にも繋がってくると説明されました。

午後からは「フィジカルアセスメント」で、講師の先生からは「呼吸数の無いバイタルサインは、意味がない」と説明があり、心停止した患者の70%は、心停止前の8時間以内に呼吸器症状の増悪があると強調されていました。急変を予測するためには継続

的な観察が大切であり、どういう状態なのか経過をしっかりと捉えてアセスメントしていく事がとても重要であると説明されていました。講師の先生は症例をまじえながらわかりやすく説明され、受講生は黙々とメモをとりながら集中していました。受講生からは「根拠をもってアセスメントする大切さを改めて学びました」「日ごろから VS の測定や JCS をみるだけでなく、測定した意味や数値から現状を正確に判断し早期発見に取り組んでいきたい」などの意見がありました。今回研修で学んだ事を活かし、病棟での看護実践に繋げて欲しいと思います。